

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200760		
法人名	医療法人 近藤内科		
事業所名	グループホーム 宗堂さくら苑		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町宗堂597		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanistrue&JigyosyoCd=3372200760-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人近藤内科が母体の当事業所は、同一敷地内に、外来・入院・居宅介護支援事業所・デイサービスと共にあります。各部署との連携により、利用者様にとつてのよりよい医療・介護を一緒に考えます。当事業所では、365日、日々の生活のお世話は勿論、入所者様の心に寄り添う介護が出来るよう、研修やミーティングを通して、スタッフのレベルアップに努めています。また、同一敷地内の診療所から、ほぼ毎日、医師や看護師の往診もあり、安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長く勤めている職員が多く、一番短い職員でも3年、勤務継続している。職員間の連携も図られ、何でも相談し合える良好な関係性が築けている。馴染みの職員による落ち着いた支援は、利用者に安心をもたらす、理念の実践に繋がっていると思われる。代表者は職員が意欲的に介護に全力投球できるようにと考え、働きやすい職場環境の整備に努めている。外出支援に力を注いでいこうと計画していた矢先のコロナの感染拡大で、外出、買い物や外食に制限をかけざるを得なくなった。楽しみにしていた行事や地域住民との交流も中止になり、ストレスを感じている利用者に対して、少しでも楽しみを持って生活してもらいたいと、ホーム内での行事を見直し、職員間で検討をしている。利用者の生活の活性化に向けて意見を出し合い、コロナ禍の中でも、前向きに捉え、努力する職員の姿が印象に残った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目にする所に、理念を書いたものを掲示し、理念の共有に努めています。	理念と共に介護の原点を簡潔に挙げ、声に出しての確認を促している。「生きてよかった」と生き活きた表情で過ごすことができるような支援を職員一人ひとりが心に問いかけ、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	診療所・デイサービスセンターと同じ敷地内にあるので、地域と密接につながっています。地域の文化祭や盆踊りなどにも参加させていただいています。	コロナ禍で地区の行事や、園児との交流等が中止になり、利用者にとって寂しい年度となった。その中でも変わらず、季節の野菜を届けてくれる地域住民もおり、地域の一員としての日常的な交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご参加下さる地域の方々と、情報交換をしています。グループホームがどういう所で認知症の方たちにどういった支援が必要かなどの話し合いをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や、サービスにおける新たな取り組みなどについて、参加者と話し合い、様々なアドバイスを戴いています。	年6回開催しているが、3月からは書面会議とし、参加メンバーに議事録を郵送している。民生・児童委員の参加が多い。返信で多くの提案や質問があり、関心の高さがうかがえる。職員への配慮や激励もあり、応援の体制が整い、心強い。	返信にある提案や質問に、丁寧に答えていく事を望む。認知症の支援方法や、日々の取り組みの様子を伝える事で、さらなる理解と支援の深まりに期待を寄せる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市包括支援センターからも、度々運営推進会議に参加していただき、最新の情報や、専門職の貴重なアドバイスをいただいています。	地域包括支援センター職員が感染予防対策や、新しい生活様式の資料を送ってくれている。市職員とは日頃から顔馴染みの関係作りを心がけ、書類提出時に質問や相談を持ち掛け、アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	3か月に1回、参考資料にビデオを用い、研修を行っている。日々の申し送りノートで情報の共有を図り、束縛のない暮らしの支援に取り組んでいる。衣服を脱いだり、おしめを外したり、シーツを被ったり等してしまう利用者もいる。何故その行動に繋がるのかという原因を探り、転倒等の危険につながらないように根気よく見守り、対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、虐待防止について話し合い、未然に防げるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りの居られない入所者様からの希望により、後見人の依頼をしました。成年後見制度についての認識を、より一層深めていきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、ご家族に十分に説明し、改定時には、文書などでご理解・ご納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記しており、ご家族がスタッフに要望等を話せるような関係づくりに努めています。また、定期的に事業所便りも発行して、ご家族との架け橋としています。	暮らしの中の小さな要望も聞き取る努力をしている。速やかな解決に努め、大きな不満に繋がらないように配慮している。行事や外出が制限される中、「宗堂さくら苑だより」で、ホーム内での日常の様子を伝えるよう努め、家族理解を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフの意見に耳を傾け、意見を活かすよう努めており、それは代表者にも届いています。	業務内容や、支援方法等は職員間で話し合い、全員で決めている。職員間のコミュニケーションが良くとれており、意見や要望が出しやすい。介護用品や備品の購入も提案し、検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフがやりがいを持って働けるよう、環境・整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフの技術・メンタル両面において、資質の向上の為、各種研修の機会を与えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加時に同業者の方々と交流していますが、互いの職場を行き来するまでには至っていないため、敬老会や運営推進会議に招き招かれる関係の一つでも作りたいたいと思ひます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に十分に話を聞き、入所後もしばらくは、出来る限り寄り添うようにしています。ご本人やご家族が何を望んでおられるのかを、知ることから始めたいと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定時には、ご家族は様々な不安や葛藤をお持ちだと思います。今後何でも話し合い、一緒に考えていきたい事を、伝えていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当日からまず必要なサービスについて、ご家族やスタッフと話し合うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側にならないよう、個々の人格を尊重し、共に支え合いながら生活できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の様々な事情を理解した上で、ご家族・スタッフ共に、ご本人を支える様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族は勿論、ご近所の方や友人が、気兼ねなくいつでも会いに来られる雰囲気作りに努めています。また、日中たとえひとときでも帰宅したい思いが叶うように、ご家族にも無理のない範囲での働きかけをしています。	家族と利用者の思いを大切に考え、感染予防対策を万全にして15分程度の面会をすることもある。医師の許可を取り、車中から住み慣れた自宅周辺を眺めたり、うどんを食べに行ったりする人もいます。家族との繋がりを意識し、喜んでもらえるような年賀状の支援を計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無関心や、気の合わない人と、時には小さなトラブルが発生することもあります。スタッフは常に気を配り、良い関係が築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のために退所後も、面会に行っています。退院後の相談も受けながら、不安にならないよう支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、話をしながら、ご本人の思いや希望を知り、添えるように努めています。	家族も把握していなかった本人の得意な事を発見し、生き生きとした表情が見られる事もあった。好きな事や夢中になれる事を探し、提供できるように努めている。「帰りたい」という希望があれば、実現に向けて家族と話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの暮らしについては、ご本人・ご家族・担当していたケアマネなどから、情報を収集し、把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	収集した情報を基に、スタッフ間のミーティング・申し送りにより、ご本人のその日の状態を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望に基づき、スタッフ全員で話し合い、サービス担当者会議で検討して、ケアプランを作成しています。	変化がなければ6か月ごとに見直し、作成している。記録を活用し、毎月ニーズの確認を行い、進捗状況をチェックしている。家族の希望や、職員の意見を聞き、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に、ご本人の日々の様子や変化などを、詳細に記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(小規模多機能型のみ記載)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りに参加して、なじみの方々と話をしたり、カラオケ・民謡・三味線・フラダンスなどの、地域ボランティアの方々に訪問していただいて、練習の腕前を披露して貰っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医と、協力医療機関の医師との連携を図り、病気の種類により、適切な医療を受けられるようにしています。歯科医師の訪問もあり、入れ歯の調整や口腔ケアなどが速やかに受けられています。	母体医院や他の内科医院、眼科、皮膚科、メンタルクリニック等、本人や家族の希望する医療機関での受診を支援している。母体医院の医師の訪問が毎日ある。24時間の看護師の対応もあり、本人・家族はもとより、職員の安心も得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内にある診療所から、医師・看護師の訪問や往診があり、日々心配なことを相談したり、診察を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と協力医療機関とは、常に連携を図り、本人の病状・様子の把握に努めています。また、スタッフも面会に行き、ご家族とも情報の共有に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合における対応に係る指針についての説明をしています。	隣接する母体医院の看護師が、毎日注射に来てくれることもあるが、食事摂取が困難になってきた時点で、医師を交えて話し合いの機会を持ち、対応方針を決めている。経管栄養の実施等で医療機関を選択する家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数年前にAEDを設置して取り扱いを学びました。消防署主催の救命救急講習にも参加させていただき、急変や事故発生にも備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を、年に2回実施しています。	今年度は4月・10月に行った。警報装置の点検、ばい煙窓の開閉の確認、懐中電灯のチェック等は定期的に行っている。小学校が地域の避難場所となっているが、事業所として地域住民の受け入れも検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	タイムカード横に、人格尊重のための心得を掲示し、仕事に入る前に、全スタッフは、今一度介護の原点に立つ努力をしています。	本人が好きに過ごせるように、自己決定を尊重している。以前は「～してあげる」等の職員目線からの言葉かけがあったが、職員間で話し合い、基本姿勢に立ち返る事により、一人ひとりの人格を尊重する言葉かけができるようになったと聞き取る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるよう、スタッフは寄り添いながら、自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の体調や希望に合わせて、リビングやお部屋で過ごす時間を、ご自分で決めていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室にご家族と出かけられたり、訪問理容師に希望を言ってカットしていただいています。日々の服も、ご自分で選んで着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、お料理は一緒にしていませんが、ご飯の炊けるにおいやお味噌汁の香りなど、食欲が湧く様配慮しています。テーブルふきやお茶入れなど、出来る範囲でお手伝いして載っています。	朝の味噌汁作りや、炊飯はホームの台所で行っている。利用者の好みの寿司を度々メニューに取り入れたり、敬老会の祝い御膳を提供したり、厨房でも食事を楽しむ為の工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には、特に気を配っています。食事、個々の量・速度・好みを把握し、食事を楽しんで戴けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自に合わせた口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ誘導して、おしめに頼らない生活を心がけています。毎日の排泄チェック票により、個々の排泄のリズムを把握しています。	一人ひとりの排泄パターンや能力に応じて、個別の支援をしている。夜間でも30分おきにトイレ誘導をすることもある。居室にトイレがあり排泄のプライバシーは守られているが、職員は音や電気で察知し、安全な誘導や確認を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック票により、常に主治医と相談し、水分量や漢方薬の処方などで、排便コントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて、ゆっくり入浴を楽しんで戴けるよう支援しています。拒否のある入所者様には、無理強いをせず、時間をおいて再度声かけをしたり、脱衣所でしばらくお茶を飲んで落ち着いて戴くなどの工夫をしています。	2~3日に1回は入浴できるように支援している。何度か声かけしても拒否がある時は、無理なく翌日に入浴してもらうこともある。全身の皮膚状態に気を配り、打ち身の有無の確認や、乾燥しているところは保湿を行う等、早期に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや個室で、思い思いに過ごして戴いています。お昼寝や休息など、個々のリズムの把握にも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援には、細心の注意をしています。常に主治医と関わりを持ち、薬が変わったときには、特に気をつけて様子を見ようとしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気兼ねなくご自分の好きなことが出来るように気を配っています。リビングでの塗り絵や編み物、自室で好きなテレビを見られるなど、個々にご自分の時間を楽しませています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と、昼食や買い物に自由に外出しておられます。さくら苑でも、日々の散歩以外に、数人ずつ回転寿司やスーパーマーケットなどに出かけています。天気の良い日には、中庭にテーブルを出して、昼食を楽しんだりしています。	コロナの影響で全体での外出や外食ができなくなった。盆踊りや公民館活動も中止になり、利用者も職員も多少のストレスを感じる様になってきている。その中で、移動販売車が来た時に外に出てみたり、敷地内を散歩したりして、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族からの預かり金はありませんが、移動販売車が来たときなどには、スタッフと共にさくら苑のおやつを買いに出ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も、ご家族から受ける方が多いですが、携帯電話でご自分で電話したり、返事のはがきを一緒に書いて送るなどしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには穏やかな光が入り、明るく暖かい雰囲気です。暖房の時期には加湿器も併用し、快適な温度や湿度にも気を配っています。壁には、季節のクラフトや、個々の作品や写真を飾っています。	温度・湿度・換気に配慮し、快適な空間作りに努めている。ドアノブ等の除菌・消毒も行っている。畳のコーナーや、ゆっくり座れるソファがあり、思い思いの場所で寛いで過ごすことができる。行事の写真と共に職員の名前入りの顔写真も貼っており、家族にとってもありがたい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室、敷地周りの散歩など、自由に寛いで載っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族が、ご本人の愛用品やお気に入りの物を整え、安心して過ごせるようにしています。一人一人個性のあるお部屋になっています。	ベッド・クローゼット・洗面所・トイレが備え付けてあり、落ち着いて過ごすことができる居室になっている。畳のスペースもあり自宅の環境に近い温かみを感じる。衣類の整理をしてくれる家族もあり、一人ひとりの状況に合わせた居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは各個室に設置されていますが、車椅子で楽に使用できる共用のトイレがあります。また、生活の場所には、手すりを取り付けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200760		
法人名	医療法人 近藤内科		
事業所名	グループホーム 宗堂さくら苑		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町宗堂597		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372200760-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人近藤内科が母体の当事業所は、同一敷地内に、外来・入院・居宅介護支援事業所・デイサービスと共にあります。各部署との連携により、利用者様にとつてのよりよい医療・介護を一緒に考えます。当事業所では、365日、日々の生活のお世話は勿論、入所者様の心に寄り添う介護が出来るよう、研修やミーティングを通して、スタッフのレベルアップに努めています。また、同一敷地内の診療所から、ほぼ毎日、医師や看護師の往診もあり、安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目にする所に、理念を書いたものを掲示し、理念の共有に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	診療所・デイサービスセンターと同じ敷地内にあるので、地域と密接につながっています。地域の文化祭や盆踊りなどにも参加させていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご参加下さる地域の方々と、情報交換をしています。グループホームがどういう所で認知症の方たちにどういった支援が必要かなどの話し合いをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や、サービスにおける新たな取り組みなどについて、参加者と話し合い、様々なアドバイスを戴いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市包括支援センターからも、度々運営推進会議に参加していただき、最新の情報や、専門職の貴重なアドバイスをいただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、虐待防止について話し合い、未然に防げるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りの居られない入所者様からの希望により、後見人の依頼をしました。成年後見制度についての認識を、より一層深めていきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、ご家族に十分に説明し、改定時には、文書などでご理解・ご納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記しており、ご家族がスタッフに要望等を話せるような関係づくりに努めています。また、定期的に事業所便りも発行して、ご家族との架け橋としています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフの意見に耳を傾け、意見を活かすよう努めており、それは代表者にも届いています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフがやりがいを持って働けるよう、環境・整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフの技術・メンタル両面において、資質の向上の為、各種研修の機会を与えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加時に同業者の方々と交流していますが、互いの職場を行き来するまでには至っていないため、敬老会や運営推進会議に招き招かれる関係を一つでも作りたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に十分に話を聞き、入所後もしばらくは、出来る限り寄り添うようにしています。ご本人やご家族が何を望んでおられるのかを、知ることから始めたいと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定時には、ご家族は様々な不安や葛藤をお持ちだと思います。今後何でも話し合い、一緒に考えていきたい事を、伝えていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当日からまず必要なサービスについて、ご家族やスタッフと話し合うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側にならないよう、個々の人格を尊重し、共に支え合いながら生活できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の様々な事情を理解した上で、ご家族・スタッフ共に、ご本人を支える様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族は勿論、ご近所の方や友人が、気兼ねなくいつでも会いに来られる雰囲気作りに努めています。また、日中たとえひとときでも帰宅したい思いが叶うように、ご家族にも無理のない範囲での働きかけをしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無関心や、気の合わない人と、時には小さなトラブルが発生することもあります。スタッフは常に気を配り、良い関係が築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のために退所後も、面会に行っています。退院後の相談も受けながら、不安にならないよう支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、話をしながら、ご本人の思いや希望を知り、添えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの暮らしについては、ご本人・ご家族・担当していたケアマネなどから、情報を収集し、把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	収集した情報を基に、スタッフ間のミーティング・申し送りにより、ご本人のその日の状態を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望に基づき、スタッフ全員で話し合い、サービス担当者会議で検討して、ケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に、ご本人の日々の様子や変化などを、詳細に記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(小規模多機能型のみ記載)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りに参加して、なじみの方々と話をしたり、カラオケ・民謡・三味線・フラダンスなどの、地域ボランティアの方々に訪問していただいて、練習の腕前を披露して貰っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医と、協力医療機関の医師との連携を図り、病気の種類により、適切な医療を受けられるようにしています。歯科医師の訪問もあり、入れ歯の調整や口腔ケアなどが速やかに受けられています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内にある診療所から、医師・看護師の訪問や往診があり、日々心配なことを相談したり、診察を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と協力医療機関とは、常に連携を図り、本人の病状・様子の把握に努めています。また、スタッフも面会に行き、ご家族とも情報の共有に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合における対応に係る指針についての説明をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数年前にAEDを設置して取り扱いを学びました。消防署主催の救命救急講習にも参加させていただき、急変や事故発生にも備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を、年に2回実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	タイムカード横に、人格尊重のための心得を掲示し、仕事に入る前に、全スタッフは、今一度介護の原点に立つ努力をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるよう、スタッフは寄り添いながら、自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の体調や希望に合わせて、リビングやお部屋で過ごす時間を、ご自分で決めていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室にご家族と出かけられたり、訪問理容師に希望を言ってカットしていただいています。日々の服も、ご自分で選んで着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、お料理は一緒にしていませんが、ご飯の炊けるにおいやお味噌汁の香りなど、食欲が湧く様配慮しています。テーブルふきやお茶入れなど、出来る範囲でお手伝いして載っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には、特に気を配っています。食事、個々の量・速度・好みを把握し、食事を楽しんで戴けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自に合わせた口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ誘導して、おしめに頼らない生活を心がけています。毎日の排泄チェック票により、個々の排泄のリズムを把握しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック票により、常に主治医と相談し、水分量や漢方薬の処方などで、排便コントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて、ゆっくり入浴を楽しんで戴けるよう支援しています。拒否のある入所者様には、無理強いをせず、時間をおいて再度声かけをしたり、脱衣所でしばらくお茶を飲んで落ち着いて戴くなどの工夫をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや個室で、思い思いに過ごして戴いています。お昼寝や休息など、個々のリズムの把握にも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援には、細心の注意をしています。常に主治医と関わりを持ち、薬が変わったときには、特に気をつけて様子を見るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気兼ねなくご自分の好きなことが出来るように気を配っています。リビングでの塗り絵や編み物、自室で好きなテレビを見られるなど、個々にご自分の時間を楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と、昼食や買い物に自由に外出しておられます。さくら苑でも、日々の散歩以外に、数人ずつ回転寿司やスーパーマーケットなどに出かけています。天気の良い日には、中庭にテーブルを出して、昼食を楽しんだりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族からの預かり金はありませんが、移動販売車が来たときなどには、スタッフと共にさくら苑のおやつを買いに出ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も、ご家族から受ける方が多いですが、携帯電話でご自分で電話したり、返事のはがきを一緒に書いて送るなどしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには穏やかな光が入り、明るく暖かい雰囲気です。暖房の時期には加湿器も併用し、快適な温度や湿度にも気を配っています。壁には、季節のクラフトや、個々の作品や写真を飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室、敷地周りの散歩など、自由に寛いで載っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族が、ご本人の愛用品やお気に入りの物を整え、安心して過ごせるようにしています。一人一人個性のあるお部屋になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは各個室に設置されていますが、車椅子で楽に使用できる共用のトイレが有ります。また、生活の場所には、手すりを取り付けています。		